

阪神支部23春闘討論集会

阪神支部一致団結して物価高騰に
対応できる賃上げを勝ち取ろう！



2023. 2. 27
NO. 664 号
全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27
06-6574-8424
078-303-0800
全港湾は一人
でも入れます

1月21日、大阪港湾労働者福祉センターにおいて阪神支部23春闘討論集会を開催しました。

開会の挨拶で坂本副委員長は「コロナウイルスやロシアとウクライナの戦争、中国都市部のロックダウンにより、世界の経済と物流は多大な影響を受けた。日本においても、岸田政権はコロナや経済に抜本的対策を出せず今日に至っている。また、物の値上げも続いている。こんな時勢だからこそ今春闘は非常に大事であり、本日の集会で活発な意見を出していただきたい」と述べられました。

その後、坪井執行委員とレックス分会の角中氏が座長に選出され議事が始まりました。



河野委員長

河野委員長より「経済的な状況を見ると岸田首相はインフレ率を超える賃上げの実現を経団連などにお願しているが、言うだけで賃上げの根本を作る政策を

示さない。安倍前首相時代からの貿易赤字が続く限りは大きな賃上げが実現するのは難しい。大きな会社は体力があるかもしれないが、我々が働いている会社はほとんどが中小企業であり、あるアンケート結果によると7割が賃上げの予定はないと残念な回答があった。そうはいうものの、物価は生活に影響が出る程上がっている。アメリカなどでも物価は上がっているが賃金も上がっている。日本だけが取り残されている。

本来連合などの組合が気合いを入れてやってくればいいが、港湾の労働組合は毎年港運協会と交渉を行っている結果も残ってきている。今年は今まで停滞してきた春闘時期の運動も徐々に復活させていき春闘勝利に向けて頑張っていきたいと思います」と挨拶されました。



畠山委員長

続いて来賓挨拶に立った関西地方本部の畠山委員長より「2023年の世界経済は4つの逆風に直面すると言われている」とし、次のように説明しました。

1. 物価高

コロナ対策による巨額の

財政とロシアのウクライナ侵攻によるエネルギーや食料価格高騰に拍車がかかっていること。

2. 金融引き締め

副作用

アメリカFRBは昨年0・75%の利上げを4回続けた。現在アメリカの金利は4・5%。急速な円安は物価を押し上げ実質賃金を減少させている。日本の景気が今後どうなっていくのか非常に気がかり。

3. 中国経済の不振

ゼロコロナ対策の急激な方針転換は大都市での感染拡大を招き、中国経済は不振が続くそう。大阪、神戸港は特に中国との貿易が盛んで、今後が非常に心配される。

4. 世界経済を襲う

分断の進行

アメリカと中国の派遣争いは、半導体をはじめとする中国からの先端技術を移動させる一方、中国の台湾攻撃侵攻が政治的に煽られ、軍事費を5年以内に43兆円もの増額する一方、GDP比2%以上にしようとして、それに伴う増税が囁かれています。

との説明の後「2月27日に関西地本統一要求提出の予定である。悲観的なことばかり話したがこれらを払拭する経済闘争で大幅賃上げを勝ち取らないといけな

い。今討論集会でより良い23春闘方針が確立されるよう、活発な議論をお願いいたします」と述べられました。



滝口専務理事

続いて一般社団法人大阪府トラック協会の滝口専務理事による記念講演が行われました。



機関紙コンクールでは4分会に奨励賞授与

はあったが3倍には増えた」とユーモアを交え、今のリアルな現状を語っていただきました。

続いて久保田書記長より、春闘方針の提案があり、今春闘の賃金引上げ要求額は定昇別「30,000円」以上とし、関西地本春闘討論集会及び、全港湾中央委員会に臨み、全国統一要求でたたかうことが確認されました。

トラック協会が何をしているところかの説明があり「今取り組んでいるのは運賃を元請けも含めて荷主にしっかり払ってもらおう。時間短縮については改善基準告示が12月に発表されたが、経営側ですら労働者の皆さんと一緒に仕事をしたいがこの辺りについては微妙に違う立場でありつつも、賃金については労働組合と同じ立場で活動している」と説明されました。

また、若者や世間の厳しいトラック業界の評価にふられ「以前府立高校に授業に行った時、185人からアンケートをとったがトラック業界に就職したい学生はその中で1人だった。今年も同じ高校にアンケートに行ったが今年は3人で

続いて機関紙コンクルの発表があり今回は4分会からのエントリーがありましたが、順位付けは行わず、エントリー分会に奨励賞が贈られました。

道下副委員長の閉会挨拶の後、河野委員長による団結カンパニーにて散会しました。

執行委員 河本 英博

春闘討論集会発言

食品や電気代など幅広い金額の値上がりに賃金の伸びが追い付かず、家計を一段と圧迫しています。

岸田首相や経団連も各企業に賃上げを促しています。が、大企業では動きがあるものの労働者の8割を占める中小企業では大手と比べて経営基盤が脆弱であり、賃上げがどの程度広がるかという点では明るい兆しがない状況です。

今回の23春闘では平和運動や政治運動も重要ですが、賃上げを目指す経済闘争を最重要項目として取り扱っていただきたいと考えます。また、先日大連分会の中で議論を行い、支部統一要求額を3万円以上の金額設定で23春闘に臨んでいきたいので検討していただきたいと思っています。2月27日の関西地本要求提出の場では分会交渉の背中を押す意味で企業に対し、5桁以上の賃上げがなければ終われないとプレッシャーをかけていたと思います。最後に、大阪府トラック協会では荷主に対して料金の引き上げなど積極的に活動しているのを知りました。阪神支部も可能であれば業界団体などと協力しながら荷主に対して料金引き上げの要

請を行うことを検討してみたいかがでしょうか。

大連分会 田村 岳士



毎年分会独自に行っている春闘アンケートでは要求額が昨年を下回らないことと、分会員の生活実態から支部要求額として3万円を提案します。

日本コンテナ輸送分会

百田 倫典



春闘方針(案)では世直しは資本からとあるように賃上げよりも政治のことが大きく取り上げられていました。政治が大事ということもわかるのですが、今年は物価高騰もあるのもっと賃上げを前面に出して一本メインでもよかったのではないのでしょうか。

また、以前友人から労働組合に関しての質問を受けた際に、機関紙を紹介すると「政治団体のように見える」との指摘を受けました。生活がよくなるなら組合に入りたいと思っても政治色が強いと二の足を踏んでしまう現状があります。

後藤回漕店分会

先野 圭介



さらに、組織拡大の方針で今まで通りのやり方で行うとのことですが、それで本当に増えるのかという疑問があります。この1年で

基本給一律30,000円以上を賃上げにこだわる春闘に

関西地本23春闘討論集会

1月25日、2023年関西地本春闘討論集会が大阪港湾労働者福祉センターにおいて開催され、地本執行部を含む総勢47名が参加し、座長に地本執行部の大月氏と神戸支部の飛田氏を選出しました。

開会の挨拶を行った河野副委員長は、国民が物価高騰で苦しんでいる中、何一つ具体的な対策を示さず、その一方で防衛費強化として22年度防衛費予算を2倍の10兆円超(GDP比2%)へ増額し、増税で賄おうとする岸田政権を強く批判しました。

また「財界や大企業、政府は労働者を分断し自己責

任化を図り、ものが言えない状態に置くことで春闘を破壊してきた。それに対峙する労働組合側も問題があり、ほとんどが企業内労働組合であるとともに個別企業内のたたかいでは限界がある。全港湾は産別労働組合を軸とした全国的なストライキで要求実現してきた事実があり、自分たちの要求は地域の要求だ。企業は、赤字なら価格に転嫁してでも賃金を上げる、必要な原資は大企業、元請け、国に求め、労働者にしわ寄せをするな」と、社会的世論を拡げ賃金引上げや労働条件向上を勝ち取るうと呼びかけました。



畠山地本委員長

関西地本を代表して挨拶を行った畠山執行委員長は、「23春闘は重要な経済闘争である。公正取引委員会の価格点検結果調査報告書では、燃料高騰のほか23年4月より月間時間外労働60時間以上は5割増し、さらに時間外規制を間近に控えた運輸業界は大きな原資が必要となるが、トラック運送業は一番価格転嫁が遅れている」とし、「様々な原資を確保するためにも運賃料金の改定は不可欠である。また標準運賃収受の告示は2024年3月末で消滅する時限立法であり、本年度中に価格転嫁した運賃改定をしなければ、今後チャンスはない」と危機感をあらわにしました。

され、第44回中央委員会で活発な意見を求めました。また、国土交通省が策定中である「港湾労働者不足対策アクションプラン」にふれ、「特に事業間の協業促進は港湾法や港湾運送事業法の規制緩和に繋がり、労働者不足に対する施策ではなく反対である」と明確にしました。

総括答弁に立った畠山委員長は、全体答弁を補足したうえで「公正取引委員会

「13項目の重点課題」を掲げ、全会一致の賛成で可決され、関西地本の23春闘方針が確立されました。最後に畠山委員長の団結ガンバローで散会しました。

執行委員 鈴木 大介



松永中央書記長

来賓には、中央本部より松永書記長を迎え、全港湾中央の「秋年末闘争の経過と総括(案)」と「23春闘方針(案)」の概要を説明

最後に昨年確保できなかった分を取り戻すため、交渉日程を大幅に拡大したことにふれ、「今春闘は賃上



23春闘の大幅賃上げへ団結してガンバロー！

第44回全港湾中央委員会

大幅賃上げへ全国の組合員が立ち上がる時

1月31日、2月1日にシ―パレス日港福において第44回全港湾中央委員会が開催されました。

阪神支部からは中央執行委員として河野委員長、中央委員として南・道下副委員長と久保田書記長が参加しました。全体では中央委員44名と中執・役員19名の参加が確認されました。

開会挨拶に立った畠山中央副委員長からはじめにコロナ感染増加の第8波により会場では中執・中央委員のみの参加になったことと同時にリモートでの開催になったことの説明があり「物価高により今春闘の諸要求実現は切実な状況にあり、重要な中央委員会である」と話されました。

議長団には四国地方の中土井委員と九州地方の松崎委員が任命され委員会を進行しました。



鈴木中央委員長

鈴木誠一委員長の代表挨拶では「岸田首相は労使双方へ賃上げを要請している。経団連も大手は数%上



真島全国港湾委員長

次に来賓挨拶に立った全港湾の真島委員長は「ロシアによるウクライナ侵略

が始まってから1年が経とうとしている。戦争では学

校や病院など重要な拠点が攻撃されているが、商業の拠点である港湾も兵站基地として使われ標的となり攻撃を受けている。日米新ガイドラインでもアメリカの後方支援のため日本の港湾を兵站基地として使用されることとなっている。兵站の貨物運搬などは、民間人である港湾労働者が強制的に従事させられ、攻撃対象になる。反戦平和のため『港を兵站基地にするな』

の項目を全国港湾の23春闘方針に入れた。この理念を日本港運協会に強く申し入れ、と力強く述べ、賃上げについては「港湾労働者の賃金は低すぎる。そのため時間外や休日労働に頼ることになる。これでは悪循環となり人が来ない。岸田首相や経団連は『経済を回すための賃上げ』を提唱しているが、ほっといてくれ」と言いたい。我々は暮らしている賃金を求めている。賃金が上がっても兵站となつては安心して暮らせない。平和でも賃金が上がらなければ暮らせない。この両輪を両立しなければならぬ。エッセンシャルワーカーと呼ばれ物流・運輸を担う港湾は重要な産業である。23春闘は労働組合の力量が試される。大幅な賃上げを取りにいくためにた

たかい抜く」と決意を表明しました。

松永書記長から第1議題の「秋年末闘争の経過と報告」では冬季一時金は概ね前年を上回る結果となった事が報告されました。秋年末オールの行動や到達闘争、行政・ユーザーへの申入れ行動や、名古屋のRTG視察で協定違反があり厳しく申入れたこと、指定事業体の問題など全国港湾の制度政策闘争についても併せて報告されました。

続けて第2議題の「23春闘方針」が提案されました。22春闘が11月まで延びたこととふれ、23春闘では早期解決させることを念頭に置き、賃金引き上げが最も肝要で「一律30,000円」を求める事や雇用職域の確保などの方針、春の地方統一選挙に向けた選挙闘争について説明し「中央本部も一緒になってたたかう。共に頑張りましょう」と呼びかけました。

その後「港湾労働者アクションプラン」の問題点について作成された資料を基に説明をされ、休会で1日目を終了しました。

2日目に入り、第2議題の討論では阪神支部からは久保田書記長が「41年ぶりとなる物価上昇になる。この間バブル崩壊以降、30年間賃金は上がっていない。いまだ3K(きつい・汚い

・危険)と言われる港湾においても2016年以降、港湾産別最賃の協議が止まっている。魅力ある港湾産業はどこへ行つてしまったのか。春闘を秋まで引つ張らないように産別賃金を取りにいくため、全港湾が先頭に立つて強い姿勢で臨んでもらいたい」と強く求めました。

夢洲のIR・カジノについて「夢洲は戦略港湾の中心であるが、我々の業務と安全を顧みず、万博後の2029年にはカジノ開業が予定されている。大阪府・市政はカジノの是非を問う住民投票を求める21万筆の府民署名も無視を決め込んでいる。カジノ依存症、犯罪増加などの治安の悪化も懸念される。関西地本では宣伝カー運行・反対の署名活動に取り組んできた。1か月弱で6,300筆、1月に提出された署名の40%を占め、あらためて全港湾の結束・団結、全国の仲間

の力に感謝申し上げる。引き続きカジノを置かせない、平和且つ安全安心な港の職場環境のために活動を行う」と報告しました。

南副委員長からは「自動車重量税の走行距離で課税が変わる方式の案が出されているが、車が無いと生活できない地方の方や我々ドライバ―職への負担が大きくなる」とし、標準的運賃

については「海上コンテナの輸送は増加傾向にある。荷主から適正料金がとれるよう取り組みの強化を求めるとしました。

総括答弁では「政府や経団連も賃上げは必須としていいる。これほどの状況的追い風はなかなか無い。ストを構えてでも賃金を取りに行く。先頭に立つて交渉に

第15回全国港湾中央委員会

23春闘は待ったなし！産別最賃の前進を

2月7～8日にシ―パレス日港福において第15回全港湾中央委員会が開催されました。

阪神支部からは現地で河野委員長、リモートで6名が参加しました。

鈴木副委員長の開会挨拶の後、日港労連の古澤委員と全倉連の林委員が議長に選任され進行しました。

真島委員長の代表挨拶では①大幅賃上げのために適正料金の確保で魅力的な港湾労働の確立。②そのための産別運動の強化。③仲間の安全を守るため港湾を兵

站基地にさせない事を述べられ、23春闘のたたかう方針確立のための議論を求めました。

玉田書記長から第一号、第二号議案の提案がされ「春闘は労働組合にとって一丁目一番地であり、一定

入る覚悟をもって要求額『基本給一律3万円』を求めていく。全国が立ち上がる時である」と力強く締めくくりました。

特別決議が採択されたのち、橋崎副委員長の閉会挨拶があり、鈴木委員長の団結カンパローで散会しました。

副委員長 道下 拓也

の成果を上げなければならぬ」と述べられました。

これに対して9人の中央委員から質疑が行われ、阪神支部の河野委員長からは「30年賃金が上がらず実質賃金は下がり続けている。現在の物価高は生活負担増で影響はとて大きい」とし、「荷主・ユーザーに価格転嫁を求める料金交渉は企業の責任であり、労働者の賃金に還元させること」と2016年以降止まっている産別最賃の前進を求めました。

8日には全港湾の松永書記長から第44回全港湾中央委員会まとめとたたかう決意が述べられました。

最後に23春闘要求が満場一致で可決され、真島委員長の、団結カンパローで散会しました。

副委員長 道下 拓也

春闘準備はお任せあれ

神戸ブロック横断幕作成



二手に分かれて効率よく作業

毎年行っている横断幕作成ですが、今年も様々な工夫を行い、効率的に作業を行うことを目指しながら、作成を行いました。

スローガン案については一昨年、昨年と同様に事前にブロック員にメールで募集を行い、今年は15案が集まりました。

選定は1月のブロック会議で行う一方、事前に一覧をSNSで添付し、出来る限り投票に参加してもらう方法を思案し、多くの方の意見を反映できるように工夫をしました。

投票結果をもとに若干加筆修正を行い、スローガンが決定しました。

春闘用2つ

大幅賃上げ！力を合わせて好条件を掴み取ろう！

明るい未来の為に賃金アップがはじめの一步

メーデー用1つ

8時間労働、8時間休息、8時間は自分のために！

昨年の作成は参加できる人が少なく、時間がかかってしまったため、昨年12月の部会から日程調整を行い、下地塗り、色着けの工程にブロックだけで6名の参加があり、担当執行委員の方にも手伝っていただいで完成となりました。

昨年の反省から今年は効率よく作業を進めることができ、また今年もメーデーは開催およびパレードの詳細が決まっていなかったこともあって、作成を延期したこともあり、春闘用2枚のみの作成だったこともありましたが、思いのほか早く作業が終わりしました。

また、新しい試みとして来年以降の効率化と作業短縮を目指し、作成作業と並行して文字の形をくり抜いたボードとスプレー塗料を使った作成方法も試してみましたが、スプレー塗料の乾燥時間が長かったことから、来年以降は乾燥時間も考慮して、また効率化の方

法を考えていきたいと思いました。

例年通り日本コンテナ輸送分会、大洋運輸分会に揭示協力していただきますので、近くを通った際には出来栄を確認していただければ幸いです。

また横断幕作成は、全港湾阪神支部の存在と運動をアピールできる貴重な機会ですので、揭示協力いただける分会がありましたら、作成枚数を増やしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

神戸ブロック事務局長 脇坂 光一

分かるかな？

懸賞クイズ



【問題】

リンゴ・ミカン・バナナを積んだトラックが急カーブで何かを落として行きました。
何を落としたのでしょうか？

663号の回答

「准教授の数式謎解きレポート」

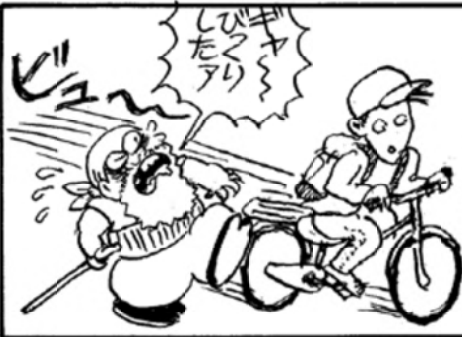
【解説】

このタイトルには「す」が入っているから
「す」入り小説

4名の方から応募があり、全員が正解でした。
抽選の結果、以下4名の方にQ.U.Oカードを進呈します。
堀古知司・田原宏・西野太基（ジャパンエクスプレス）、松井 謙一（三林）

664号の締め切り日は3月9日（木）です。
ふるってご応募ください。

カマヤん 黙ってる人々 ありむら潜



完成！掲示されている実物の確認もぜひ！